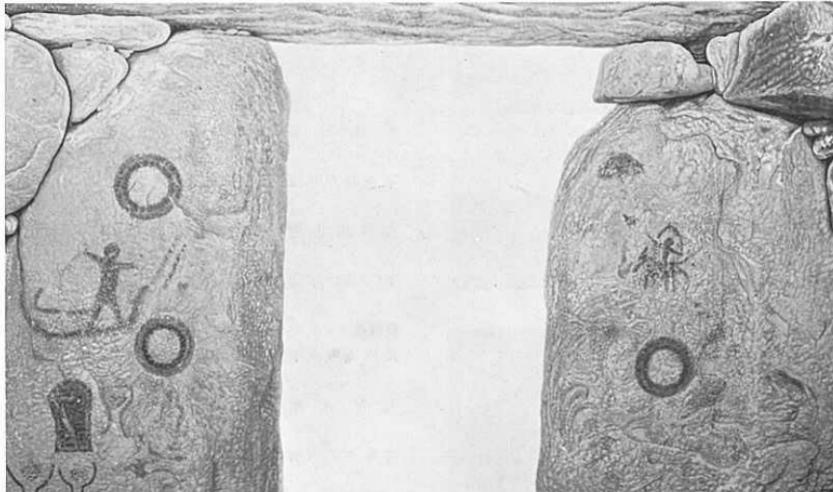


No. 16

博物館報

「装飾古墳壁画展」特集号



田代太田古墳の壁画

太田古墳玄室の奥壁壁画は赤、黒、緑の三色の顔料と石の肌の色を利用して三角文・蕨手文・人物・花文・騎馬人物・高杯・橋・同心円文が克明に描かれていて豪華な雰囲気をつくりだしている。

この写真に見る壁画は中室から後室に通する左右の袖石に描かれたものである。左側袖石には上下2ヵ所に外側を赤、それに接して内側を黒色で同心円文が描かれている。円文は各地の古墳に古くから長年にわたり描かれており、中には太陽、鏡さらには月をあらわしたものもあるが、一種の呪力を象徴した文様であろう。2個の円文のほぼ中間には手足を大の字に広げた人物と船が描かれている。船の右側には緑色と赤色の2本の竿状のものがありそのすぐ右にこれも方形の旗状のものが配されていて旗指物を思わせる。船の下方には内部を黒色で塗り埋め、輪廓を赤色の太い線で縁どりした橋が描かれている。また橋の右端から下部にかけて高杯がある。高杯には供物が盛られているがそれを内部を透視した表現が描画手法上おもしろい。右側袖石には上部に騎馬人物像が描かれ、その下に円文が配されている。馬上の人物は、弓に矢をつかえ満月のごとく引きしばり、今にも矢を放たんとする姿は被葬者の魂を守る武人の警護の姿であろうか。

福岡県桂川町王塚古墳や筑紫野市五郎山古墳と太田古墳の壁画との間には、描かれた図文やその配置、使用された顔料に類似するものが多い。これは6世紀中葉における葬送思想ひいては文化面において密接な類縁関係を物語る貴重な資料である。

前　　次

田代太田古墳の壁画	1
「装飾古墳壁画展」紹介	2～7
博物館日誌・行事お知らせ	8

特別企画展紹介

装飾古墳壁画展

主 催 佐賀県教育委員会

佐賀県立博物館

後 援 文化庁

佐賀県市町村教育委員会連合会

佐賀県小学校教育研究会社会科部会

佐賀県中学校教育研究会社会科部会

佐賀県高等学校教育研究会社会科部会

佐賀県造形教育研究会

会 期 昭和48年10月13日～11月4日

会 場 佐賀県立博物館

特別講演会

日 時 昭和48年10月13日（土）午後2時から

会 場 佐賀県立博物館 中展示室

演 題 「装飾古墳壁画」のしくみ

講 師 東京芸術大学名誉教授 日下八光氏

聴 講 料 無料

講師紹介

日下八光氏は、大陸の西域壁画の模写をはじめとして、宇治平等院鳳凰堂装飾画の模写を行ない、さらに昭和30年からは、文化庁の委嘱でわが国の古墳壁画の模写および復原模写など多くを手かけてこられたわが国における装飾古墳壁画模写の第一人者である。著書に「装飾古墳」がある。

主旨

わが国の装飾古墳は、西は九州から東北地方にまで広く分布しているが、なかなかずく佐賀県、福岡県、熊本県等の有明海に面した筑後川と菊池川の流域に最も多く分布し、九州の古墳文化を特徴づけている。またそれ等の古墳に描かれている絵画や文様は数少ない色を効果的に駆使し、大胆率直で神秘性があり、わが国古代文化の解明上極めて高い価値をもっている。

先年奈良の高松塚古墳から極彩色壁画が発見されて以来、装飾古墳への国民の関心が一段と高まって来た。そこで本館では文化庁が昭和30年から東京芸術大学名誉教授日下八光画伯に委嘱して作成した装飾古墳壁画模写を中心 최근発見された新しい多くの資料もあわせて一堂に展示し、古代文化の解明と原始絵画の鑑賞に資するともに文化財保護意識の高揚を図るものである。

なお、今回の「装飾古墳壁画展」のために、壁画収録の対象とした古墳の数は59基であるその主な出品展示内容は次のとおりである。

佐賀県

田代太田古墳 奥壁模写

奥壁復原模写

前室両袖石復原模写

西隈古墳 石棺前面写真

石棺前面拓本

伊勢塚 奥壁写真

勇猛寺古墳 1号石室写真

1号石室左袖石拓本

2号石室線刻写真

2号石室線刻拓本

3号石室線刻写真

3号石室線刻拓本

永池古墳 閉鎖石線刻写真

閉鎖石線刻拓本

竜王崎6号墳 左袖石線刻写真

左袖石線刻拓本

古賀山古墳 石室線刻写真

右側壁線刻拓本

米ノ隈古墳 石室線刻写真

奥壁線刻拓本

長崎県

長戸鬼塚古墳 石室線刻写真

前室左側壁線刻拓本

丸尾古墳 石室線刻写真

石室線刻拓本

善神さん古墳 石室線刻写真

奥壁線刻拓本

側壁拓本

浦安古墳 石室線刻写真

右側壁線刻拓本

左袖石線刻拓本

福岡県

竹原古墳 前室正面戸口左側壁画模写

前室正面戸口右側壁画模写

前室正面戸口右側壁画復原

模写

後室奥壁模写

王塚古墳 石星形架石裏面壁画模写

石星形架石支柱壁画模写

右屏風石壁画模写

右燈明台壁画模写

左燈明台壁画模写

後室前壁横石壁画模写

後室前壁下部壁画模写

後室前壁左側壁画模写

奥壁壁画模写

後室左側壁画模写

石星形架石上面及縁壁画模写

後室棺床前方側面壁画模写
 後室棺床左屏風石壁画模写
 石屋形左側支柱壁画模写
 前室正面戸口右側壁壁画模写
 後室前壁右側壁壁画模写
 右屏風石壁画模写
 右、左燈明台壁画模写
 後室石屋形架石壁画模写
 後室棺床左屏風石壁画模写
 後室棺床側面壁画模写
 後室左側壁復原模写
 後室右側壁復原模写
 後室前壁下半復原模写

五郎山古墳 後室左側壁模写
 後室奥壁上部模写
 後室奥壁下部模写
 後室右側壁上部模写
 後室右側壁模写

日輪寺 楠壁線刻写真

浦山古墳 石棺内面写真

石棺奥壁拓本
 石棺内左右側壁拓本

下馬場古墳 前室正面抽石壁画写真
 奥壁壁画写真

後室左、右壁画写真

寺德古墳 後室右側壁壁画写真
 左側壁壁画模写

左側壁壁画模写

奥壁壁画模写

右側壁壁画模写

羨道左側壁壁画模写

羨道右側壁壁画模写

羨道天井壁画模写

珍敷塚古墳 後室奥壁壁画模写
 後室奥壁壁画写真

古畑古墳 後室奥壁壁画模写

鳥船古墳 奥壁壁画模写

重定古墳 後室右側壁壁画模写
 後室奥壁壁画模写

前室正面戸口通路左側壁壁画模写

塚花塚古墳 後室奥壁壁画模写
 奥壁壁画模写

原古墳 石棺写真

石人山古墳 石棺屋根線刻拓本
 石人像写真

萩ノ屋古墳 後室奥壁壁画写真
 奥壁線刻拓本

倉永古墳 奥壁線刻写真



竹原古墳玄室奥壁



石人山古墳石棺蓋右斜面直弧文

熊本県

弁慶ガ穴古墳 前室右側壁中央部壁画模写
 前室左側壁中央部壁画模写

前室正面戸口右側壁壁画模写

前室正面戸口通路右側壁壁画模写

前室正面戸口左側壁壁画模写

前室正面戸口左側壁壁画模写

チブサン古墳

後室石棺内壁正面中央壁画模写

後室石棺内壁左側面壁画模写

後室石棺内壁右側面壁画模写

鍋田横穴

27号横穴外壁壁画写真

27号横穴壁画部分写真

長岩横穴

横穴外景写真

108号横穴外壁浮彫写真

ナギノ横穴

横穴外景写真

	7号横穴入口飾縁写真
	横穴内部浮彫写真
石貫穴觀音横穴	入口飾縁写真
	墓室奥壁浮彫写真
原 横 穴	横穴外景写真
	墓室左壁線刻写真
大 坊 古 墳	石屋形奥壁壁画写真
永安寺東古墳	前室右側壁壁画写真
	前室左側壁壁画写真
	前室正面戸口左、右壁壁画写真
永安寺西古墳	側壁線刻壁画写真
釜 尾 古 墳	石屋形奥壁壁画写真
	石屋形前壁壁画写真
千金甲甲古墳	奥壁石障浮彫写真
	左壁石障浮彫写真
千金甲乙古墳	石屋形右側壁線刻壁画写真
	石屋形左側壁線刻壁画写真
井 寺 古 墳	石障壁線刻壁画写真
	奥壁石障拓本
桂 原 古 墳	奥壁壁画写真
	側壁線刻壁画写真
	側壁線刻壁画拓本
大 戸 鼻 南 古 墳	石棺右側内壁写真
	石棺右側内壁文様拓本
大 戸 鼻 北 古 墓	櫛壁線刻文様写真
	櫛壁線刻文様拓本
長 砂 連 古 墓	左側壁線刻文様写真
	左側壁線刻文様拓本
	右側壁線刻文様写真
広 浦 古 墓	石棺内壁浮彫写真
	石棺内壁拓本
鶴 篠 古 墓	石棺蓋外面線刻拓本
	石棺蓋文様写真
五 反 田 古 墓	右側櫛壁線刻文様拓本
	奥櫛壁線刻文様写真
大鼠歳東麓古墳	石棺内壁線刻写真



桂原古墳・帆を有する船



千金甲古墳玄室奥壁

石棺内壁線刻拓本

線刻画部分写真

城 本 横 穴

横穴外景写真

7号横穴外壁浮彫写真

11号横穴外壁浮彫写真

京ヶ峰横穴

横穴外景写真

2号横穴左、右外壁浮彫写真

1号横穴外壁浮彫写真

大分県

穴観音古墳 後室奥壁壁画写真

ガランドヤ古墳 後室奥壁壁画写真

後室奥壁壁画部分写真

報恩寺第3号墳 前室正面左右袖石壁画写真

後室入口櫛石壁画写真

大阪府

高井田古墳 羨道左側壁線刻壁画模写

奈良県

高松塚 石椁内部全景写真

奥壁壁画写真

右側壁壁画写真

左側壁壁画写真

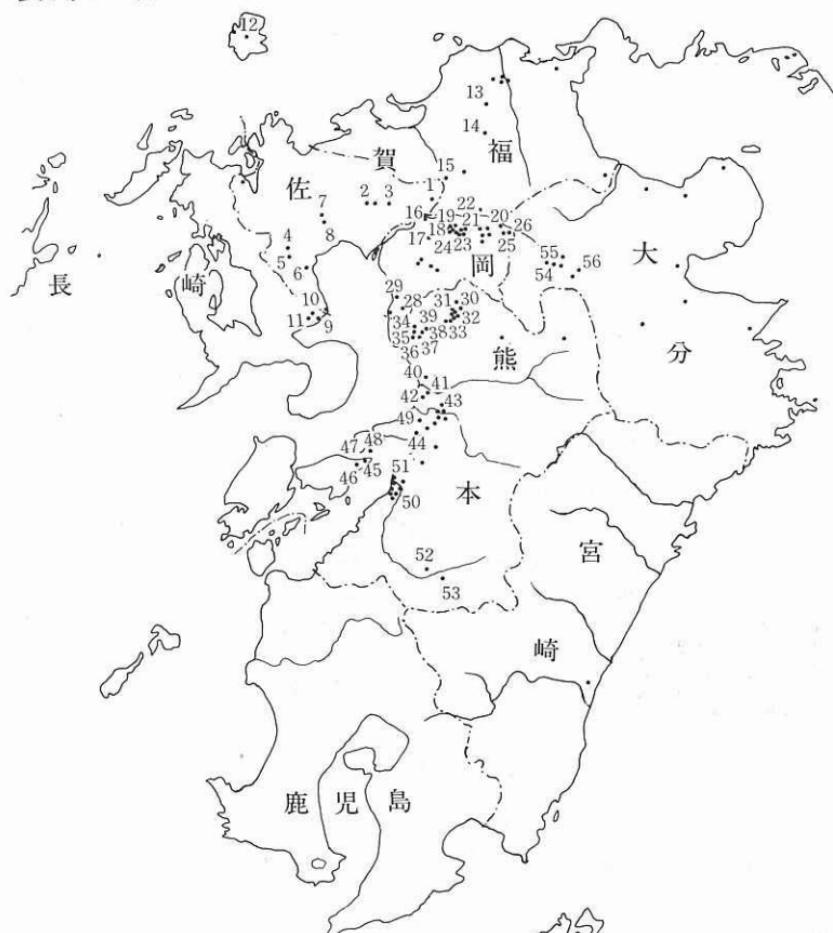
福島県

清戸追古墳 奥壁壁画模写

今回展示される写真・拓本は、関係市町村教育委員会のご協力を得て当館職員により蒐集されたものである。

(学芸課 志佐博彦)

装飾古墳分布図



(数字は装飾古墳壁画等出品一覧
表の古墳番号)

裝飾古墳壁畫等出品一覽表

博物館日誌

- 6月22日 NHK総合テレビ「話題の窓」で「装飾古墳壁画」放映
- 6月23日 鍋島直泰氏から蒸気機関車彫形、蒸気汽船彫形（スクリュー形、外輪形）の寄託を受ける
- 6月24日 佐賀美術協会創立60周年記念展終了
(総観覧者数 4,364名)
- 6月27日 中央通り日祐前にポスター掲示板設置
- 6月29日 九州歴史資料館長鏡山 猛氏来館
- 7月 5日 伊万里市野口鉄男氏から民家模型の寄贈を受ける
- 7月14日 「郷土の先覚者書画展」開場（大展示室）
- 7月18日 NHK総合テレビ「話題の窓」で「郷土の先覚者書画」放映
- 7月20日 池田知事、体育協会団体委員長保坂周助氏

- 7月23日 を案内して来館
「郷土の先覚者書画展」展示品一部入れ替え
共立女子大学、学生井手美津子氏本館で博物館学実習（7月30日まで）
- 7月26日 熊本県教育委員長浦池正夫氏米館
- 7月28日 第11回博物館研究講座
演題「近世美術史上における中央と地方について」
講師九州芸術工科大学教授 岸田勉氏
- 8月 1日 「九州企展」開場（8月5日まで中展示室）(総観覧者数 382名)
- 8月10日 常設展「佐賀県の歴史と文化展」終了
「郷土の先覚者書画展」終了
(総観覧者数 3,083名)
- 8月21日 国学院大學教授麻生 優氏他5名来館
- 8月22日 韓国釜山大学教授金 延鶴氏来館

行事お知らせ

修学旅行の計画に博物館の見学を折込んでください。

展覧会名	会 期	観覧料()	開催料金	内 容
理科作品佐賀市支部展	9月29日～10月1日	無 料		佐賀市内および佐賀県内の小・中・高校の児童・生徒のすぐれた動植物(昆虫を含む)・植物・岩石類・理科学作品を展示し、科学に関する興味をもつて育むことを目的とする。科学に対する理解を深める。
理科作品県展	10月3日～10月6日			
九州沖縄工芸秀作展	9月29日～10月5日	大人 200 (150) 大・高生 150 (100) 小・中生 100 (50)		本年度の九州・沖縄芸術祭の参加展示事業で、現代の九州・沖縄各県で創造されている陶器、磁器をはじめ、木竹工芸、金属工芸品などを明日の西日本地域の工芸を背負って立つ第一線作家の最近の秀作100点を展示する。今後、西日本地域工芸を方向づけるものとして注目される展覧である。
体 館	10月7日～10月12日			観 覧 会 準 備 の た め
装飾古墳壁画展	10月13日～11月4日	大人 100 (80) 大・高生 80 (50) 小・中生 30 (20)		奈良・高松塚古墳の彩色壁画が発見され、装飾古墳に対する一般の関心が高まっている。文化祭の後援で、同府が昭和30年以來、東京芸術大学名誉教授、日下八光氏によって模写したものおよび、その関係資料を展示し、古代文化の紹介と、文化財保護思想の高揚に資する。
装飾古墳壁画演会	10月13日14時から	講 師 東京芸術大学名誉教授 日下 八 光 氏 演 唱 「装飾古墳壁画のしくみ」		
休 館	11月 5日～11月16日			観 覧 会 準 備 の た め
第23回 佐賀県美術展	11月17日～11月25日	大人 100 (80) 大・高生 80 (50) 小・中生 30 (20)		日本画、洋画、明治、工芸、写真、書、宣伝美術の各部門にわたり県内より公募したものの出品作品。審査員作品を展示して佐賀県における現代美術を一般に紹介し、地方文化の高揚に資する。
休 館	11月26日～11月28日			観 覧 会 準 備 の た め
佐賀県高等学校美術展	11月29日～12月 4日	無 料		佐賀県内の高等学校生徒が制作した水彩、油彩の絵画を一般に公開する。
日本近代文学展	12月 1日～12月23日	大人 50 (30) 大・高生 30 (20) 小・中生 20 (10)		日本近代文学および本近代文学博物館をはじめ、全国各地に保管されている近代文学の原稿、初刊本、肖像写真等の資料を中心近代文学思想の体系をもって展示し、将来をなう青少年に対して、教養の一環として公開する。
日本近代文学展 特別講演会	12月 8日 13時30分から	講 師 九州大学教授 重 松 泰 雄 氏		
休 館	12月24日～1月 9日			観 覧 会 準 備 の た め
常設展 佐賀県の歴史と文化展	1月10日～3月31日	大人 50 (30) 大・高生 30 (20) 小・中生 20 (10)		
新遺跡出土資料展	1月20日～2月 8日	常設展料金に含む		県内の遺跡のうち、近年緊急調査、学術調査によって出土した資料を中心に、関係資料を公開、資料をもとにして当時の人々の生活のあとをかえりみながら、遺跡に対する認識と文化財保護思想の普及と向上をはかる。
新遺跡出土資料展 講 講	1月26日14時から	講 師 佐賀県 文 化 調 査 本 木 下 之 治 氏		
鍋島藩窯展	3月 5日～3月24日	常設展料金に含む		近世、織物の大生産地として、名譽を博した有田焼の中で、鍋島藩窯は特異な発展をとげた。本展は色鍋島・鍋島染付、鍋島青磁を中心、発掘陶片をも含めて、藩窯の価値を再認識するとともに、今後の有田焼の発展と向上に資する。
鍋島講演会	3月 9日14時から	講 師 美術評論家 水 竹 威 氏		

新刊書案内 「郷土の先覚者書画」

一般、当館で開催した「郷土の先覚者書画展」の際に発行した団録で、藩政時代から明治初期にいたる佐賀県の先覚者52名の遺墨120点を写真で紹介し、先覚者の略伝のはか書の跋文および先覚者生没一覧表等を付している。郷土の先覚者研究の座右の書として好評を得ている。

体裁 B5版 アート紙 89頁

領布価格 ￥500円 申込みは当館へ。

博物館報 第16号

発行年月日 昭和48年9月1日

編集 古賀秀男

発行 佐賀県立博物館

印刷 佐賀印刷社